

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ア	生物多様性の保全		
施策	②外来種対策の推進			
(施策の小項目)	○マンガース等外来種防除対策			
主な取組	マンガース対策事業	実施計画 記載頁	13頁	
対応する 主な課題	○マンガース等の人為的に持ち込まれた外来種が在来希少種の生存を脅かしているなど、本県の在来種の多くは生存の危機に瀕している。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	マンガースによる希少種の捕食を減らすため、北上防止柵以北におけるマンガースの排除。 マンガース捕獲の効果を確認するための希少種回復状況調査の実施							
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体	
	200個体 マンガース 駆除数				50個体		→ 県	
	マンガースの防除							
	新たな 北上防 止柵	北上防止柵のモニタリング						
	希少種回復状況調査							
担当部課	環境部 自然保護課							

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
マンガース 対策事業費 (調査委託 費)	163,655	160,566	第1北上防止柵以北、第1北上防止柵と第2北上防止柵の間の地域(バッファゾーン)におけるマンガースの捕獲及び北部3村(国頭村、大宜味村、東村)での希少種モニタリングの実施	一括交付 金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
マンガース駆除数			50個体(28年)	69個体(28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成28年度のマンガース駆除数計画値50個体に対し、実績値で69個体であり、目標を達成した。 平成25年度より、従来のワナ捕獲に加えて成体探索犬を用いた捕獲を本格的に開始しており、第1北上防止柵塩屋～福地ライン(SFライン)以北において、マンガースの生息密度は着実に減少していると考えられる。環境省によるヤンバルクイナの推定個体数調査では、平成17年度の推定生息数(700羽)から、平成27年度では1300～1500羽程度に回復していることが確認された。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
マングース対策事業費(調査委託費)	104,614	マングース排除のための捕獲及び希少種回復状況調査	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①バッファゾーンにおいて、新規ワナルートを整備し、ワナ占有率の向上に努める。</p> <p>②第2北上防止柵以南の捕獲作業について、検討委員会で検討する。</p>	<p>①これまで、ワナを設置していないバッファゾーン内の北部訓練場地域において、ワナを設置することの許可を経て新規ワナルートを整備したことで、占有率が向上した。</p> <p>②第2北上防止柵以南の捕獲作業について、検討委員会で検討し、第2北上防止柵以南は県で防除計画を策定し、次年度以降捕獲を開始することとした。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲	173メッシュ(23年度)	190メッシュ(28年度)	180メッシュ	17メッシュ	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成28年度の調査結果で、沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲が拡大しており、H28年度実績値が190メッシュであることから、成果指標を達成した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの捕獲により第1北上防止柵以北でマングース生息数が減少していることから、今後の捕獲が困難になる。 ・第二北上防止柵以南からの流入が示唆されるため、第一北上防止柵と第二北上防止柵の間のバッファゾーンでの捕獲を強化し、第一北上防止柵以北への流入を極力防ぐ必要がある。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産登録に向けた取組みが周知されることで、近年、外来種に対する関心が高まっている。

様式1(主な取組)

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・次年度以降、第二北上防止柵以南で捕獲をするために、同地域を対象としたマングース防除計画の策定を目指す。

4 取組の改善案(Action)

・第二北上防止柵以南から県道14号線以北でのマングース防除を実施するため、県のマングース防除計画を策定し、同地域でのマングース捕獲を開始する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-ア	生物多様性の保全	
施策	②外来種対策の推進		
(施策の小項目)	○新たな外来種の侵入防止対策		
主な取組	外来種対策事業	実施計画 記載頁	13頁
対応する 主な課題	○マングース等の人為的に持ち込まれた外来種が在来希少種の生存を脅かしているなど、本県の在来種の多くは生存の危機に瀕している。		

1 取組の概要(Plan)

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種の侵入状況(侵入種、範囲、個体数等)を把握するための調査の実施 ・外来種による在来希少種への影響を防止するための捕獲対策の実施 ・特定外来生物に指定されているマングースの北上防止を強化するための北上防止柵付近での捕獲、排除 ・外来種に関する情報提供・普及啓発の実施 						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1地域 外来種調査 の実施地域				3地域 (累計)		
	外来種の侵入、定着状況等調査					→	県
	優先度に応じた捕獲対策						
侵入のおそれのある外来種に関する情報提供・普及啓発							
担当部課	環境部 自然保護課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
外来種対策事業	126,632	126,543	<ul style="list-style-type: none"> ・外来種対策の指針策定に向けた外来種侵入状況の文献調査 ・既に定着し、生態系に悪影響を及ぼしているグリーンアノール、タイワンスジオ、インドクジャクについての捕獲手法の検討。 	一括交付金 (ソフト)
マングース対策事業費 (調査委託費)	163,655	160,566	第1北上防止柵以北、第1北上防止柵と第2北上防止柵の間の地域(バッファーゾーン)におけるマングースの捕獲及び北部3村(国頭村、大宜味村、東村)での希少種モニタリングの実施	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
外来種調査の実施地域			3地域(28年)	5地域(28年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	<ul style="list-style-type: none"> ・計画値3地域に対して、5地域を実施することが出来たため、順調とした。 ・グリーンアノール、タイワンスジオ、インドクジャク、ニホンイタチについて、新規ワナ等の実証試験を実施した。 ・沖縄県版外来種対策指針の策定に向けて、外来種調査を実施し、本県における外来種リスト案を作成した。 			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
外来種対策事業	128,769	外来種対策指針案の作成及び外来種(グリーンアノール等)の捕獲手法の検討	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①外来種の指針策定に向けて、関係機関へのヒアリングや現状における外来種対策の課題抽出等を行う。 ②一部外来種について、新規トラップの検討を行う。	①グリーンアノール等の外来種は、物流を通じて生息域を拡大している傾向が見られ、その対策等は充分でないことが判明した。 ②グリーンアノール、タイワンスジオ、インドクジャク、ニホンイタチについて、今後の防除対策に向けた新規捕獲手法の検討を開始した。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲	173メッシュ(23年度)	190メッシュ(28年度)	180メッシュ	17メッシュ	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	平成28年度の調査結果で、沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲が拡大しており、H28年度実績値が190メッシュであることから、成果指標を達成した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県における外来種対策について、総合的な対策等の考え方となる指針等が無いため、現状では外来種が侵入した際の早期対策などについて、関係機関が一体となった取組みが困難である。 ・既に定着が考えられる一部の外来種について、捕獲が非常に困難である。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産登録に向けた取組みが周知されることで、近年、外来種に対する関心が高まっている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・外来種の指針策定に向けて、外来種リスト案から対策を行う優先度を定める必要がある。 ・外来種対策のための新規手法開発について、各対象種ごとに専門家を交えた作業部会を設置し、効果的に検討できるようにする必要がある。

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・有識者等の意見を踏まえ、優先度を決定する。 ・新規ワナ開発等を実施している対象種ごとに作業部会を設ける。
--